

りそな 経済フラッシュ

(日銀金融政策決定会合)

◎注意事項をよくお読み下さい

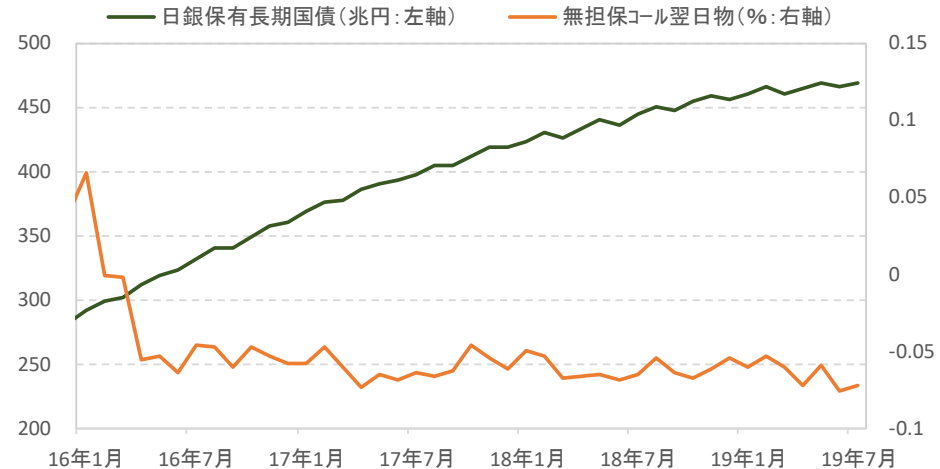


〇概況

- ◆ 政策金利▲0.1%、10年金利目標水準0%程度、国債買入れペース年間80兆円めどは変更なし
- ◆ 景気判断は「基調としては緩やかに拡大している」と据置き
- ◆ モメンタムが損なわれれば「躊躇なく追加緩和」の文言加える

- ✓ 日本銀行は7月30日の金融政策決定会合にて、「**長短金利操作付き量的・質的金融緩和**」の継続を決定した。
- ✓ 主な政策は以下の通り。
- ✓ 政策金利のフォワードガイダンス：海外経済の動向や消費税率引き上げの影響を含めた経済・物価の不確実性を踏まえ、当分の間、少なくとも2020年春頃まで、現在のきわめて低い長短金利の水準を維持。
- ✓ 長短金利操作（イールドカーブ・コントロール）：日銀当座預金残高のうち、政策金利残高に▲0.1%のマイナス金利を適用。また、10年国債利回りがゼロ%程度で推移するよう、長期国債買入れを行う。買入れ額は保有残高の増加額年間約80兆円をめどとして弾力的に実施。金利は、経済・物価情勢に応じて上下にある程度変動しうるものとした。ETF・J-REITの買入れは、それぞれ年間約6兆円・約900億円ペースで保有残高拡大。CP等・社債等はそれぞれ約2.2兆円・約3.2兆円の残高を維持。買入れ額は、市場の状況に応じて、上下に変動しうるものとした。
- ✓ 声明文では以下の文言を新たに追加。「海外経済の動向を中心に経済・物価の下振れリスクが大きいもとで、先行き、『物価安定の目標』に向けたモメンタムが損なわれる恐れが高まる場合には、躊躇なく、追加的な金融緩和措置を講じる」従来、黒田日銀総裁が記者会見や講演等で話してきたフレーズであり、今回明文化した格好。
- ✓ 先週のECB理事会では将来的な利下げの可能性が示唆されたほか、明日のFOMC（連邦公開市場委員会）でFRBが0.25%の利下げをする可能性が高まっている。米欧中銀が緩和に向けたスタンスを強める中で、日銀だけが緩和に消極的との見方が広がれば円高が進行するリスクがある。日銀としてもいざというときは動くということを示す狙いがある。

【日銀が保有する長期国債残高と翌日物金利】



【2019-2021年度の政策委員の大勢見通し（7月時点）】

	実質GDP		消費者物価指数 (除く生鮮食品)	消費税率引き上げ・ 教育無償化政策の 影響を除くケース
(対前年度比、%)				
2019年度	+0.6%	~ +0.9%	+0.8%~+1.1%	+0.6%~+0.9%
4月時点の見通し	< +0.7% >	>	< +1.0% >	< +0.8% >
2020年度	+0.8%	~ +1.0%	+1.1%~+1.4%	+1.0%~+1.3%
4月時点の見通し	< +0.9% >	>	< +1.3% >	< +1.2% >
2021年度	+0.9%	~ +1.2%	+1.3%~+1.7%	+1.3%~+1.7%
4月時点の見通し	< +1.1% >	>	< +1.6% >	< +1.6% >

【出所】日本銀行、Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。